

北山川（熊野川）を語る会 議事骨子

開催日時 平成 17 年 11 月 27 日（日）13:30～16:00
 開催場所 下北山村スポーツ公園さなりの郷 若者センター 中研修室
 出席者 担当委員 木本委員（進行役） 橋本委員、吉野委員
 同席委員 江頭委員、清岡委員、瀧野委員、中島委員
 意見発表者 葛城健也氏（北山村）、中山敏男氏（北山村）、中谷宏氏（下北山村）、田室敏三氏（下北山村）、
 山岡彰夫氏（下北山村）、金山進英氏（上北山村）、平山孝一氏（上北山村）

「熊野川を語る会」を開催し、北山村、下北山村、上北山村を代表する方々による北山川（熊野川）との係りや地域の自然、歴史・文化、産業、地域振興策等についての意見発表、代表者および傍聴者との意見交換を行った。議事骨子は以下のようである。

1. 熊野川懇談会について

- ・ これまでの河川法の改正の流れ、熊野川懇談会の設立の主旨について説明が行われた。

2. 熊野川を語る会の主旨について

- ・ 熊野川流域で「語る会」が開催されるに至った経緯、懇談会の考え方について説明が行われた。

3. 自己紹介・意見交換

<主な意見>

(1) 地元代表者による意見発表

- ・ 都会の人が癒されに来る川である。昔はよく川で泳いだ。アユやアマゴがおりホタルも舞っていた。台風によって砂利が流出して河床が埋まったため、これらを取り除いて元の川に戻して欲しい【葛城氏】
- ・ 子供の頃は水がきれい石に苔が生えていた。現在は泥を被ってしまい生態系が大きく変わってきている。観光客にはエメラルドグリーンと表現しているが、実際は台風で水が濁り、なかなか浄化されない。ダムの影響であるが、できたものは仕方がないので、現状をどうしていくかを真剣に考えることが必要である。川にとっては、山の対策も大切であると考えている。【中山氏】
- ・ 昔は四万十川に匹敵する清流だった。筏下り、鮎釣り、うなぎ取りなど生活の一部だった。池原ダムの恩恵を受けて、生活が一変したが、反面、土砂が流れてくるなどの弊害が生じている。水利権の更改をお願いしたい。10年ごとに電費と協議して少しずつでも池郷川の水利権を返してほしい。現在は、池郷川の水量が少なく伏流している。【中谷氏】
- ・ 治水と治山、森と水は切り離せない関係である。かつては、筏流しが木材搬出の重要手段だった。広葉樹がパルプ材としてつぎつぎ伐採され、住宅需要などの影響で山々には杉ばかりが植樹された。杉やヒノキには落葉広葉樹ほどの保水力がない。日差しが林床に届かず低木も育たない。これらが土砂流出の要因となり、川に砂利が堆積した。現在は、保水力低下の対策で緑のダムとして、針葉樹に変わり落葉広葉樹を導入してきている。スギやヒノキの混交林にすることは重要である。川に近接して植えれば浄化効果も期待できる。奈良県では平成 18 年度から森林環境税を導入した。川の恩恵を享受する下流の町の人々の意識が高まることを期待している。流下する砂利量が減少して七里御浜が減少している。上流域から陸路で補給はできないものか。自治体と国の間での交渉を期待している。【田室氏】
- ・ 熊野川は度重なる台風の影響で昔の面影はない。砂利が堆積して河床が上がっている。林道による山腹の崩壊、木材価格の下落による放置林の増加、緑のダムの機能低下、雨量の増加等が原因であり、堆積した砂利を早急に除去する必要がある。護岸復旧工事は、昔の姿をもっと参考にして行うべきである。広葉樹は望ましいが、針葉樹に比べて高価で育てるのにも時間がかかる。組合としては薦めたいが、所有者の意欲がそこまでいだろうか。【山岡氏】
- ・ 子供の頃の大台ヶ原は自然林で保水力があったが、人工林にしたことで鉄砲水が発生するようになった。森林の手入れをしないため、台風が来ると河川が滅茶苦茶になる。魚が釣れないため、今年の釣り客は昨年のおよそ 1/3 程度だった。熊野川の水の色は池原ダムの水の色である。電源開発は池原ダムの浄化を考えて頂きたい。【金山氏】
- ・ 大台ヶ原の保水力低下が大きな問題である。山肌が荒れて土壌が削られている。世界遺産の下がこんな状態では何十年後には大変な事になるだろう。ダム湖には遊歩道を設けて緑を回復して欲しい。このように官民交流の機会が増えて提案意見が少しでも取り入れて頂ける事を望む。治山のために植樹してもシカの食害に遭って育たない。【平山氏】

(2) 一般傍聴者も含む全体での意見交換

- ・縦割り行政で問題をどこに提起すれば良いか分かりにくい。(金山氏)
- ・土砂問題を解決すれば濁りは解決すると思うが、土捨て場が無いため需要と供給のバランスが取れていない。七里御浜へ持っていき事を考えて頂きたい。自由に土砂を処分できる法律も考えて頂きたい。(金山氏)
- ・地元要望と国が補助してくれることはかけ離れている。地元が潤う山づくりや林道等の細かな整備を望む。(平山氏)
- ・昔は、砂利が堆積しても次の台風で流されて元に戻っていた。(山岡氏)
- ・上流の尖った砂利を河口まで運ぶと下流住民は問題視するのではないだろうか。(田室氏)
- ・ダムの上層水を流すようにしたので下流はきれいになったが、上流では濁りばかりが残るのではないか。流域全体での対策をしないと濁りは解消できない。(中谷氏)
- ・川が濁っていると危険性が高まる。どうやって親しみやすい川へ戻すかを考える必要がある。(中山氏)
- ・堰堤を取り払えば昔の川に戻るのではないか。反面、山が崩壊する可能性があるため難しい。(葛城氏)
- ・川のアユやアマゴは減り、ダムのブラックバスが貴重な収入源となっている。(金山氏)
- ・住民は山腹崩壊が起きる事がある程度予測できる。災害予防工事はできないものか。業者がサービスで植樹等を行っているが限度がある。(平山氏)
- ・色々な活性化のアイデアがあっても、村費が少ないため実現しにくい。広葉樹林を2割確保するような法律規制や、企業とのタイアップによる植林など、自治体が積極的に動かないといけない。(中谷氏)
- ・森林組合でも世界遺産のガイド養成に取り組んでいくことを考えている。和歌山では企業の森というものを行っており、奈良でも要望を出していきたい。(山岡氏)
- ・山から河口まで、川は切り離せない。流域全体のリーダーを育成する必要がある。(江頭委員長)
- ・下流域はもっと上流域に感謝する必要がある。(清岡委員)
- ・公的な山からでも間伐を進めていく必要がある。落葉広葉樹は成長が早い。(瀧野委員)

以上